



# Via Latina 22

2021年7月 302号

## 総本部よりのお知らせーマリア会

### コートジボワール従属地区での初誓願

2021年6月26日、土曜日、コートジボワールのアビジャン＝デュメのマリア会修練院で、2年間の準備期間を終えてBeda Guy Fiacre OUATTARAが初誓願を宣立しました。Covid-19感染症による未だ困難な状況の中、誓願式はアビジャン在住の共同体の兄弟たちとマリアニスト家族メンバー、そしてGuy Fiacreの両親と友人たちの出席を得て、アビジャン＝デュメのマリア会修練院にて行われました。



誓願式後のGuy Fiacre士 コートジボワール地区の数名の会員に囲まれて

誓願式は、従属地区長、Georges Kouame GBEZE師が司式しました。司式司祭はその説教の中で、マリア会においてこの新たな修道士が召されている奉献生活を生きることの重要性について彼に思い起こさせました。式典は新しいマリア会修道士Guy Fiacreと共に喜びの雰囲気の中に終了しました。

## オーストリア・ドイツ地区への視察訪問（6月2日-12日）

10日間の予定で、Pablo Rambaud師とAndré-Joseph Fétis師がオーストリア・ドイツ地区を訪問しました。地区の15名の兄弟たちは3つの共同体に分かれて住んでいます：2つは学校という背景で、ウィーン（1000名の生徒のAlbertus Magnus Schule）、そしてフライシュタット（320名の生徒のMarianum）にあり、3つ目はフライシュタット近くの地方都市グライジングホーフに設けられたマリアニストの黙想／コンフェランスセンターです。2000名の生徒を有する大きな学校はドイツのフルダに在りますが、今回は訪問出来ませんでした。

諸事業は、現在の普通ではない事態にもかかわらず、良好に推移しています。これは特にマリアニスト精神をそこで育てるために熱心に取り組んでいる大変有能なMLC会員の存在のお蔭です。彼らの中の2人は、通常、教育部と財務部に於いて行政単位の評議員会の仕事に組み込まれています。



二人の訪問者 オーストリア・ドイツ地区の地区長評議員とともに  
左より：Gottfried Peyr士、地区長Helmut Brandstetter師  
Hans Eidenberger師、Alfred Aigner士  
グライジングホーフにて

修道者とMLC会員のこの緊密な協働はマリア会員たちの献身の賜物です。そのことが、会員たちの平均年齢が高いにもかかわらず、今日、彼らにその修道生活と福音活動を遂行させているものです。それは各会員が各々に与えられた賜物によって自分を豊かにし、また同時に、宣教活動を活気づける新たな方法を深める機会でもあるのです；これは教会生活の実験室なのです。MLC会員の役割はこれから先も成長し続け、そして現在でも、私たちが彼らと共に生きることができるために、そのことは、修道者が生き生きとした、活気づける、そして養成的な存在として常に信徒たちのそばにいて、注意深くあることを求めています。これは現在と将来に向けて論拠のある最も重要なチャレンジです。この心構えは、各々の能力に従って、どんな年齢であれ、また、各人の力がどんなものであれ、可能なものです。それは、神と聖母マリアが私たちに委ねた使命が常に創造的で生き生きとしたかたちで継続するよう働くことによって、前向きの希望をもって現状を歓迎するために積極的な精神を育むことを求めています。そしてまた、この地区が若者たちと召命に関するヨーロッパの司牧ケアに貢献し続けることも重要です。



総長André-Joseph Fétis師とPablo Rambaud師  
Albertus Magnus 校の指導部とともに  
ウィーンにて

私たちは、訪問の通達が遅くなったにもかかわらず、彼らの心のこもった歓迎と視察訪問への対応頂いた兄弟たちとMLC信徒の皆さんに感謝します。場所環境の素晴らしさ、オーストリア文化の豊かさ、そして兄弟愛的雰囲気はこの視察訪問を快適で実り多いものにしました。

## CEMASの責任者会議

6月25日に、マリアニスト研究ゾーンセンター（CEMAS）の責任者たち、および、退任するRobert Witwicki師と新任のJosé Ignacio Iglesia士の新旧の調整役と霊生局長のPablo Rambaud師の間でオンライン会議が行われました。

主な目的は、将来の可能な協働活動、および対面会議を組織することが出来るように、それぞれ異なるセンターで現在起こっていること、またそこでの将来のプロジェクトを分かち会えるような会議を持つことでした。この会議は、先ず私たちが受けた使命についての体験を、一つ画像と聖書の一節によって分かち合う時間で始まりました。

前回発行のVL22で既に連絡された通り、Robert師は調整役の任期を終えました。7月1日現在で、José Ignacio士が新調整役となっています。





会議全体を通して、素晴らしい兄弟愛の雰囲気と、私たちのカリスマに関する知識と体験において引き続き成長したいとのはっきりとした願望がにじみ出ていました。私たちは、この重要な使命は可能な限りマリアニスト家族の他の枝と共に実行されねばならない、ということをもますます自覚しています。私たちは、私たちのカリスマについて知識と研究への関心と、異なる場所と文化におけるその具現化を目覚めさせることを継続したいと熱望しています。

マリアニスト研究のゾーンセンター（CEMAS）は各ゾーン議長の直接責任の下にあり、マリア会が存在する異なる地理的地域におけるカリスマ研究を発展させる努力をします。現時点で存在するセンターと責任者は下記の通りです。

アジア：マリアニスト研究アジアセンター（ACEMS、Bangalore（インド）

責任者はIgnatius Arulappen師

アフリカ：マリアニスト研究アフリカセンター（CAFM / ACMF）

センターは2つの拠点を持っています。一つはアビジャン（コートジボワール）CREMAF、もう一つはナイロビに在ります。

責任者はそれぞれ、Yves Agbadou士とErik Otiende士です；

Timothy Phillips士がナイロビセンターで補佐役をしています。

ヨーロッパ：マリアニスト研究ヨーロッパセンター（CEEMA）、ヨーロッパ

センターは3つの拠点があり3名の責任者がいます：

サラゴサ（Rafael Iglesias師）、ボルドー（Robert Witwicki）そして

ローマ（Antonio Gascón）、Enrique Anguilera師がCEEMAの調整役です。

ラテンアメリカ：マリアニスト研究ラテンアメリカセンター（CELAFOM）

責任者はRenzo Prado氏

北アメリカ：マリアニスト研究北アメリカセンター（NACMS）、責任者はGeorge Lisjak氏

---

## FMI と SM の総長評議員会の会議（2021年6月15日）

2つの総長評議員会は、毎年二回、一緒に活動するため集まり、それぞれの本部で交互に会議を主催します。今回、会議はVia Latinaで行われました。



この会議は、私たちが両方の重要な行事について、また種々のプロジェクトの進捗や準備について、お互いに最新の状況を知る機会となっています。私たちはこの協働をいかに発展させたらいいかを知ろうと努めているところです。このことは特に養成に対して当てはまりま

す。私たちはまた様々な行政単位への訪問についての振り返りも分かち合います。これは私たちが SM と FMI が現存する様々な国に関するそれぞれの視点を伝え合うようにしてくれます。

この会議は実りの多いものでした。それはマリアニスト家族としての私たちの体験を考察するための十分な時間を与えてくれました。私たちは“マリアニスト家族と共に宣教を行い”たいと望んでおり、また、一緒に前進し、私たちそれぞれの体験でお互いを豊かにする必要があります。

---

## 男女総長連合会（USGとUISG）の会義（2021年5月26日-28日）

3日間に渡り、男女の総長と一緒に仕事をしました。テーマは大変時宜を得たもので、議題は“修道女になること、修道者になること”とされました。傷ついた世界にあって兄弟愛の奉仕に身を捧げる奉獻生活です。男女ほぼ同数の参加者で同等の比率を保つため、125名だけの総長が会議に出席しました。男子修道会の総長連合会(USG)215名と比較して、女子修道会総長国際連合(UISG)は2200名以上のメンバーを有することをすることが大切です。この会議は歴史的な出来事でした。というのは、男女の総長たち自身による共同会議が開催されるのは初めてだったからです。この2つの連合会の実行委員会は定期的に集まって協働する機会を持ちます。



会議はオンラインで行われたにもかかわらず、この3日間は実に兄弟愛に満ちた経験と又熟考する大変貴重な時間でした。教皇回勅 *Fratelli Tutti* に由来するこのテーマは、特に時宜を得たものでした。考察はこの回勅の3つの項目に集中しました：FT 115：兄弟(姉妹)が受けた傷に触れる； FT 216：出会いの文化； FT 277：全ての男女の尊厳のために戦う。言語別のグループでの作業は男女の出席者間でそれぞれの経験について意見交換を行い易くしました。

このような経験は修道会間の、特に女子と男子修道会間の活動の重要性を印象付けました。男女修道者の自国での多くの会議は男女混合で行われており、既にこの経験を持っています。国際レベルでこの形の協調を始める必要がありました。このような交わりの証しは私たちの証しと宣教の重要な一部分です。今後は修道者と修道女と一緒に会議する他の機会も増えるでしょう。

---

## 真理を探し求め、その真理を証しする

偽りのニュース、巧みな言葉に隠れたひねくれたイデオロギー、文献の誤った解釈・・・今日、皆さんは多くの出版物やオンラインビデオでこれらすべてを見出すことができますし、これらは今の時代のある人々に強い影響を与えています。



福者Jakob GappはGardijn枢機卿の“見る－判断する－行動する”を活用したのでしょうか？それは分かりませんが、しかし一つのことは確かです。彼は勉強し、何が正しくないかについて確信し、それを公然と非難するようになりました：「私は国家社会主義を理解するため役立つ本を読むことから始めました。私はその全体像を把握しようと努めました、例えば、重要な出来事について報道していた *Reichspost* 新聞の解説や、他の刊行誌や小冊子を通してです。私は何が何でもこの運動を理解したかったのです。特にAlbert Rosenbergの本“20世紀の神話”を読みながら、私は国家社会主義とカトリック信仰は絶対に両立しがたいとの明確な確信に到りました。しかしそれ以上のものがありました：徐々に私を襲う嫌悪感と恐怖を感じていたのです。それが、国家社会主義を拒絶するバチカンとドイツ司教団の判断を私が歓迎した理由です。そこで私はこれらの事実についてカトリック信者に知らせるべきだと確信しました。」

今日の世界はそれ自身を真理へと導く確かな羅針盤を必要としています。真実の探求において、また、道から外れてしまったり、あるいはいのちへの道を探し求めている人たちを導く正しい言葉の探求において、福者Jakob Gappの助けを祈り求めましょう。

---

## マリアニストは *Laudato Si'* の呼びかけを喜んで採用します

私たちは教皇フランシスの歴史的回勅である *Laudato Si'* 発行5周年を記念する特別年を終えたところです。この過ぎた1年を通して、多くのイニシアティブは私たちの意識の最前線において *Laudato Si'* の精神を持ち続けています。これは、他の政治的、社会的団体の側での高まる意識と共に、私たちの地球のため、そして確かに人類全体にとって、福音(良い知らせ)となってきました。

5周年記念の年は終わったとしても、この回勅の焦点であった緊急な必要性はなくなり、私たちにチャレンジし呼びかけ続けています。私たちはこれら“明快な呼びかけ”を無視したままにしないことが絶対不可欠です。この呼びかけは普遍的なものであり、また組織的団体への呼びかけであると同時に個人への呼びかけでもあります。



多くのかたちで、教会は、深く関わっている修道会と共に、この件に関して主要な役割を果たしています。これら努力の1つは、「ラウダート・シ・アクション・プラットフォーム」の設立です。この組織はバチカン、カトリック組織国際連合、そして“善意ある全ての男女”間のユニークな協力です (LS3)。真にゼロからのアプローチを取ることによって、この組織は世界中の共同体の強みと現実根を下ろしており、私たちはより良い将来に向かって一緒に旅をしているので、全ての人が“今ここで、断固とした行動”を取るよう力づけています (LS 161)。更なる情報のためには、彼らの[website](#)にアクセスするをお勧めします。このプラットフォームは多くの言語でオリエンテーションと資料を提供していますので、皆さんは、個人的にあるいは宣教活動において、回勅の中で非常に雄弁に要点が説明されている私たちの“共通の家”への尊重を証しする人々のこの“共同体”に入ることが出来るでしょう。

さらなる資料はネットを通して利用できます。また私たちは総長連合会によって準備されたページを参照することもお勧めします。それは、[ここ](#)に在ります。



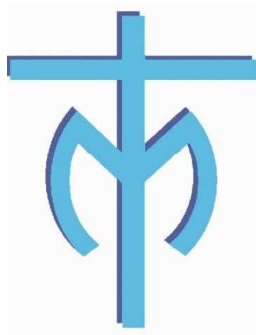
*Laudato Si'* の呼びかけへの具体的な応答に着手する方法の素晴らしい模範として、マリアニスト・シスターたちは、“地球の叫び、困窮者の叫び、そして若者と将来の世代の叫び”に答える7年のプロセスへの献身を作成しているところです。彼女たちは「ラウダート・シ・アクション

・プラットフォーム」に完全に合致するこの献身についての短い説明書を発行しました。この[計画](#)に目を通し、その計画の中にあなた自身自身の献身と、関わっている事業体の献身を導いてくれる靈感を見つけることは、大変有意義だと思います。

教皇フランシスと共に、全世界が“私たちが分かち合うこの家への愛情あふれる意識を高め、そして私たちが大切なものとして保持する価値に従って行動するよう”祈りましょう。

---

## 祈りの要請



「愛する御母マリア、私たち皆を一つに結ぶ絆の意識のうちに、この世界を一つのすばらしい家族に属するという感覚に成長させてください。そうすれば私たちは兄弟愛と連帯の精神を持って多くの貧しい人々と悲惨な状況にある人々たちに援助の手を差し伸べるようになります。信仰の堅固さ、奉仕活動に於ける忍耐、祈りに於ける忠誠を保てるよう勇気を与えてください。」 教皇フランシスコ、  
(パンデミックの終息を嘆願する祈りからの抜粋)



## 最近の総本部通信

- 訃報：14-17号
- 6月18日：教育局長、Maximin Magnan士から、「教育に関する世界的協定」、3か国語で全ての教育部長と行政単位の実任者宛送付。

## メールアドレス変更

Stephen Mburu 師 (EA): [regsuperior09@sm-ea.or.ke](mailto:regsuperior09@sm-ea.or.ke)

Gabriel Kirangah 師 (EA): [gkirangah@sm-ea.or.ke](mailto:gkirangah@sm-ea.or.ke)